

今回のPICK UP商品



ハウス栽培用熱回収型
除湿換気システム
どくとるドライ

春・秋・冬の
ハウス換気
+除湿に!

ハウス栽培では、品質向上と高収量を両立させるうえで、高湿とCO₂濃度低下が課題となる。この問題を一举に解決する画期的な熱交換型除湿換気システム「どくとるドライ」を紹介しよう。

photo: Noriyoshi Yamamoto text: Reggy Kawashima

除湿しながらCO₂濃度を保つ
「どくとるドライ」が凄い!!



除湿と室温・CO₂濃度維持 全てを一台でこなす

花卉栽培では、ハウス内をいかに良好な環境に保つかが、品質と収量、そして収益を左右する。そのため施設メーカーからは、温度管理や湿度管理、それに換気やCO₂濃度維持を目的とした様々な製品がリリースされている。

岐阜県でガーベラを栽培している高橋さんも、かなり前からハウス内の高湿とCO₂濃度低下に頭を悩ませていた。そんな高橋さんが選んだのは「どくとるドライ」。その結果、「お客様から高橋さんのガーベラが欲しいと指名されるようになったよ」と笑顔を見せる。今回は、そんな高橋さんの声を交えつつ、熱交換型除湿換気システム「どくとるドライ」を紹介しよう。ハウス内を除湿するだけでなく、日中には換気できるのでCO₂濃度を保ち、そのうえハウス内温度を下げない、という画期的なシステムだ。

CO₂濃度を保つことで 作物は健やかに成長する

本製品を導入したキツカケを高橋さんに何うと「実はどくとるドライ」の前のモデルを導入していました。その結果が良かったので、後発商品の「どくとるドライ」も迷わず入れました。だから「どくとるドライ」の製造工程さんとは長い付き合いなんですよ(笑)。特に朝方は気温が下がって湿度が上がると、葉が湿りがちでした。酷いときには水滴が付いていることもありまして。そんな悩みもどくとるドライを入れたことで簡単に解決しました」という。導入前は出荷後の花弁に、染みが出てクレームを受けることも稀にあったが、今ではそんなクレームは皆無。自信を持って出荷できるという。

「どくとるドライ」は換気もできる。そのため光合成が活発になる日中にCO₂濃度を保てるのもウリの一つだ。実際に高橋さんが育てるガーベラは、大きく美しい花だけだけでなく、茎の太さも際立っていた。CO₂濃度を保つことで健やかに成長する。これも導入の効果である。

最後に、イーゾ製品への信頼の高さが分かるエピソードを一つ。イーゾが新たに室温調節の機能を追加した新商品「ぐっぴージョーカー」を販売するという。それを聞いた高橋さんは「また導入しなきゃー」と満面の笑顔で即答していた。それだけのメリットがあるに違いない。



病害が減った!

「湿度が高いと花に染みがでることがある。出荷段階で分からないから辛かった」と高橋さん。今ではそんなこともなくなった。



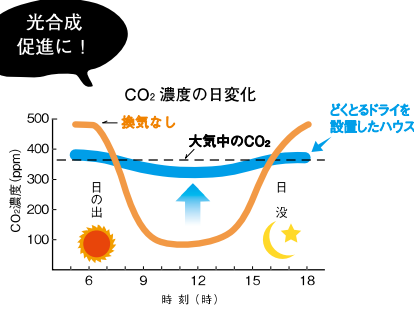
葉っぱがサラサラ!

「適切な湿度に保たれているか、朝方に葉を見ると良く分かるんだ」と高橋さん。確かに葉の表面はサラサラとしていた。

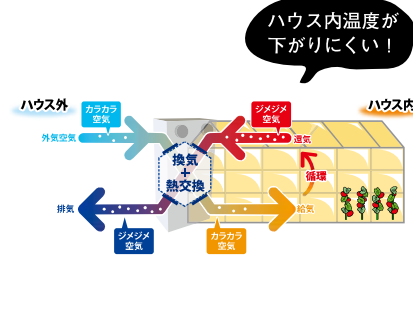


温度を下げずに換気!

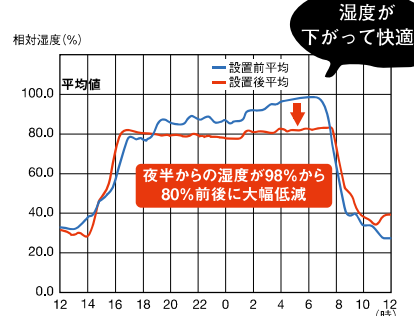
「どくとるドライ」は熱交換型除湿換気システム。ハウス内温度を下げずに換気できるので、CO₂濃度を保てるという特長がある。



除湿する工程で外気を取り込み内気を放出(換気)するため、光合成が活発になる日中にもCO₂濃度を維持、作物の成長を促進する。



乾燥した外気を取り込み、温めてハウス内の下層に放出。湿った温かい空気は熱を渡したあと、湿気と共に放出される。



最も湿度が上がりがやすい夕方から朝に掛けては注目。「どくとるドライ」を使うことで湿度が98%から約80%に下がっている。

新たにCO₂施用室温調節の機能が追加! 「ぐっぴージョーカー」が登場

「どくとるドライ」は除湿に重点を置いているが、この「ぐっぴージョーカー」は、新たに室温調節機能を搭載。これで冷暖房と除加湿、それにCO₂濃度を外気以上に維持することができるようになった。これまで以上にハウス内環境を自由に制御できる。「儲かる農業」を目指したい方に注目の新製品だ。



商品の詳細、ご説明します!
株式会社イーゾ
☎0120-838722 http://esinc.co.jp